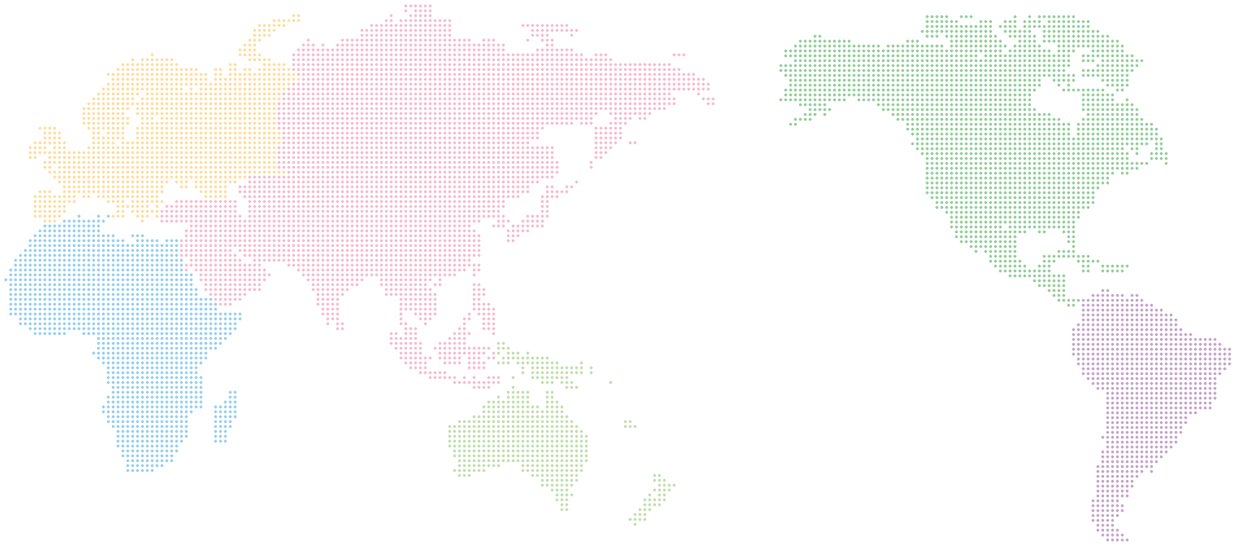

30th

30年の覚え書き

公益財団法人 新潟県国際交流協会
Niigata International Association

30年の覚え書き

公益財団法人 新潟県国際交流協会

30th

30年の覚え書き

公益財団法人 新潟県国際交流協会
Niigata International Association

表紙の写真について（上）

当協会が入居している万代島ビルから
新潟西港信濃川河口を望む

新潟西港は1945年（昭和20年）の日本の敗戦までは大陸への前進基地であり、羅津、清津、釜山へ航路が開かれていた。

その後は北朝鮮帰還事業の地であり、その時、韓国の猛反対の中で、地上の楽園を目指して多くの人たちが帰国した。吉永小百合主演の映画「キューポラのある街」を思い出す。約50年を経た現在、その事業の成果が問われている。

そのような中で1978年（昭和53年）に設置された駐新潟韓国総領事館は、北東アジア諸国の領事館の中でも最も古い総領事館である。領事館業務は当然だが、この事業の成り行きを見守っていたのだろう。

その頃から北東アジア時代が到来したこともあり新潟は「北東アジアの拠点」と呼称されてから久しい。その後、旧ソ連の崩壊と共に、日本海の政治的バリアもなくなり、北東アジア時代がひらかれ、1993年（平成５年）に在新潟ロシア総領事館、2010年（平成22年）に在新潟中国総領事館、そして、その間の2007年(平成19年)に在新潟モンゴル国名誉領事館が設置された。

旧ソ連の崩壊により始まった東西融和も、近年では冷戦復活の兆しさえある。

そのような中で、時計の針を逆戻りさせないよう地域間国際交流を通じての貢献が、私たちにとって重要なのである。

表紙の写真について（下）

当協会が入居している万代島ビルから
信濃川上流を望む

甲斐・信濃の分水嶺から100里流れて、越後平野の中央から日本海に流入する大河 信濃川は、やがて五大洋を目指す。雄大な大地と大河の恵みの中で育まれた新潟県民は、それを享受し、そこで生きることを誇りにも思う。

この夜の情景はドナウ川で左右に分けられているハンガリーの首都 ブダペストの夜景と比べられる。ドナウ川に架かる名高い鎖橋を含む幾本かの橋は、川の流れに調和して美しい夜景をつくりだす。

日本海拠点都市と称する新潟は、華やかさこそブダペストには劣るが、川面の夜景では決して劣らない。万代島ビル最上階から上流を望むこのフロアこそが「ブダ」であり、右に見える比較的平坦な新潟島を「ペスト」と呼ぶ。

新潟の夜景にブダペストの夜景を重ねながら眺め、感慨に浸るのである。（写真提供：ホテル日航新潟）

過日、新潟市で開催された会議に出席した韓国の詩人 宋俸鉉氏は「新潟感想」という題名で次のように詠んでいる。

平野は漠として広く、そこに住む人々の心は優しくかつ温かい。
ふと見あげれば遠方に連なる青い山々は峨々として雄しく、
静かに流れる大河は北の大地に平和を育む。
厳しくも美しき自然に生きる人々は常に胸襟を開き、
豊壌たる海はやがて五大洋に至る。
そこに芽生えたる文化は深淵の実りを熟成させ、
世界に誇れる人徳を育てあげた。